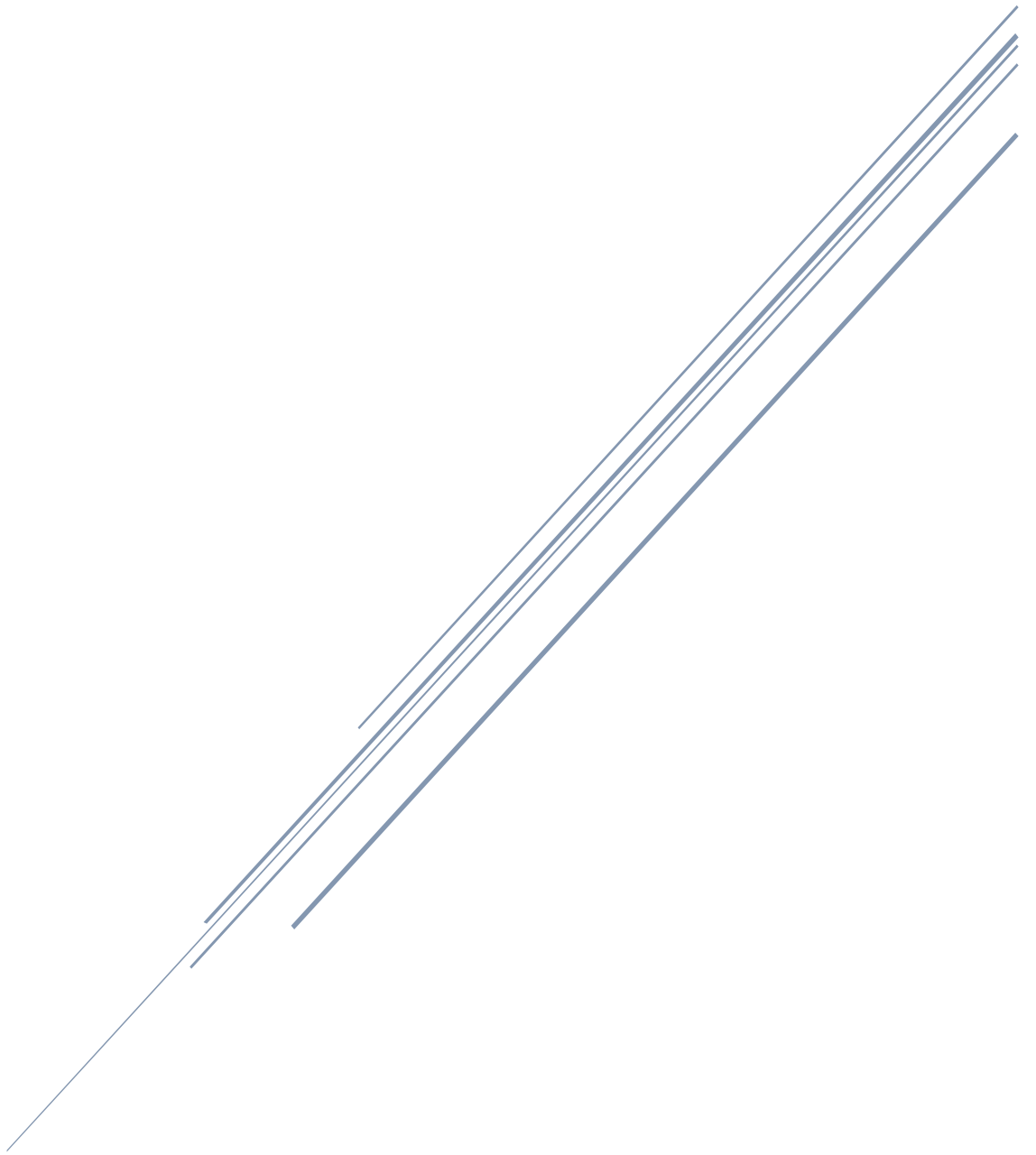


外部人材や 地域の教育資源の活用



□本校の土曜授業のねらい

- ・保護者や地域の方々は学校に協力的ではあるが、近年は児童数の減少とともに学校への関心が薄れている課題が見られた。
- ・このため、土曜日に外部人材やPTAなどの地域の教育資源を活用したり、協力を得たりする授業を行い、学校、家庭、地域が一体となって児童を育む気運を高めた。

地域の専門家を活用した農業体験

〔取組の概要〕

- 「稲の成長や稲作りの苦勞を知り、収穫の喜びを味わう」、「稲作が日本の文化を形成し、自然環境の保全に役立ってきたことを学ぶ」、「共同作業の大切さを知る」のねらいに応じた農業体験を土曜授業の一環として行った。
- 農業体験では、里山の復活に取り組む「栗山町ハサンベツ里山計画実行委員会」と連携し、農業の専門家である2名の方を講師に、第1・2学年は牛乳パックを使用した脱穀、第3学年以上は、開拓記念館から借用した足踏み脱穀機や千歯こきを使った脱穀などを行った。
- 児童は講師とのかかわり合いの中で、どの作業も現在とは違い、大変な手間と苦勞があったこと、多くの人手が必要だったことを実感することができた。

〔取組のポイント〕

ポイント① ねらいに応じた体験活動を行うこと

ポイント② 地域の専門家を活用すること

ポイント③ 外部人材とのかかわりを大切にすること



【千歯こきで脱穀に取り組む様子】

<子どもの声>

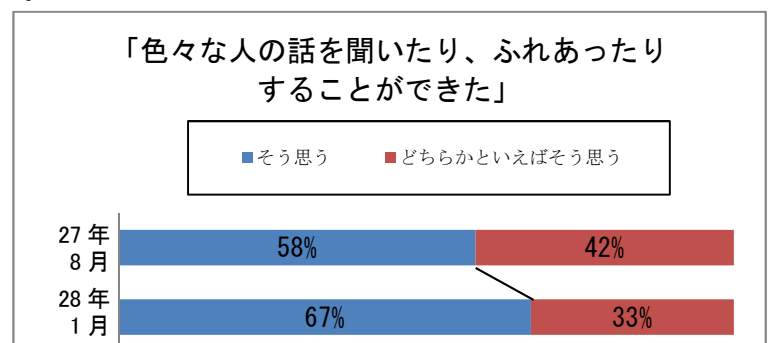
- ・講師の先生が、脱穀や精米の仕方などを分かりやすく教えてくれました。

<保護者の声>

- ・普段できない体験をすることができて、子どもたちには、いい勉強になったと思います。
- ・子どもたちがこうした学習をきっかけに、もっと地域のことを知ってほしいと思います。

〔児童アンケート結果〕

「色々な人の話を聞いたり、ふれあったりすることができた」の設問について「そう思う」の回答が8月から1月で9%増加した。



弟子屈町立和琴小学校 (平成 27 年度 年間 10 回実施)

<http://washou-3.hs.plala.or.jp/index2.html>

□本校の土曜授業のねらい

- ・本校は極小規模校であり、児童にとって社会的な体験を行ったり、豊かな人間関係を築いたりするための機会の確保に課題が見られた。
- ・このため、土曜授業に地域の人材を活用した体験活動を行い、児童に地域の一員としての意識を醸成するとともに、自分を表現し他者を理解するコミュニケーション能力の向上を図った。

外部人材を活用した体験活動の充実

〔取組の概要〕

- 児童の地域の一員としての意識の醸成を図るため、学校行事に地域行事や社会教育行事の内容を取り入れた。
- 体験活動を活性化し、児童の意欲を高めるため、体験活動に地域で活躍する人材を積極的に活用した。
- 学校、家庭、地域で児童一人一人を育てる地域づくりを進めるため、保護者や地域住民と共に行う体験活動を位置付けた。

〔取組のポイント〕

ポイント① 学校行事に地域行事や社会教育行事の内容を取り入れること

ポイント② 地域で活躍する人材を積極的に活用すること

ポイント③ 保護者や地域住民と共に体験活動を行うこと



【地域で活躍する方からヒグマの実態についての説明を聞く様子】



【敬老会で学習の成果を発表する様子】

<子どもの声>

- ・身近にいるヒグマと共存していくため、地域の方が努力していることがわかりました。
- ・地域にはたくさんの魅力的な自然があることに気づき、今まで以上に和琴が好きになりました。

<保護者の声>

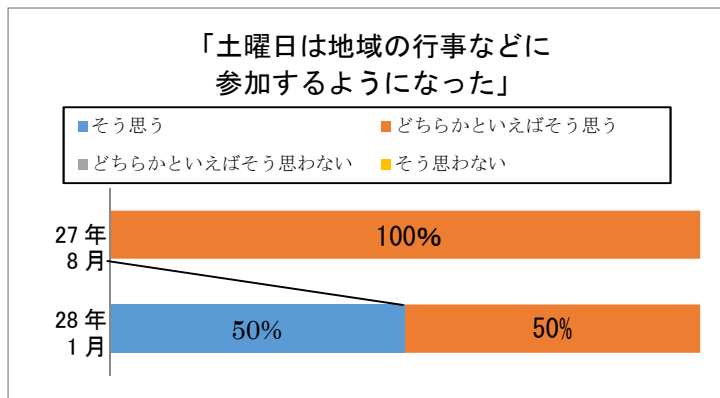
- ・保護者同士や地域の方々とのつながりが深まりました。

<地域住民の声>

- ・子どもたちとお年寄りとの交流の場ができてとてもよかったです。

〔児童アンケート結果〕

「土曜日は地域の行事などに参加するようになった」の設問について、児童の半数が「どちらかといえばそう思う」から「そう思う」に変容した。



□本校の土曜授業のねらい

- ・本校の児童は、保護者アンケート等の結果から、「学習に進んで取り組む」、「粘り強く学習に取り組む」割合が少ない傾向にあるなどの課題が見られた。
- ・このため、外部人材の協力のもと、参加・体験型の学習を取り入れることにより、学習内容の充実を図るとともに、児童の学習に対する興味・関心を一層高め、自ら学び考える力の育成を図った。

外部人材を活用した参加・体験型の学習の充実

〔取組の概要〕

- 児童が学習に対して興味・関心を一層高めるため、管内在住の元紙飛行機全日本チャンピオンの飯島実氏を講師に、「不思議夢飛行 in 春小！」の授業を行った。1回目は、5・6年生を対象に紙飛行機作成のポイントについての学習を行った。2回目は、全校児童を対象に、異年齢集団での協動的な活動を設定し、5・6年生が下級生に作り方のポイントを教えるなど、互いに協力し、教え合うことができるようにした。
- ワークショップ型の活動を設定することにより、児童は、「滞空時間を長くするためには?」、「面白い動きをしながら飛ばすには?」など、自分の課題を解決するために考え、工夫する様子が見られた。

〔取組のポイント〕

ポイント① 専門的な技能等を有する地域の
人材を活用すること

ポイント② ワークショップ型の活動を設定
すること



【自ら作成した飛行機を飛ばす児童の様子】

<子どもの声>

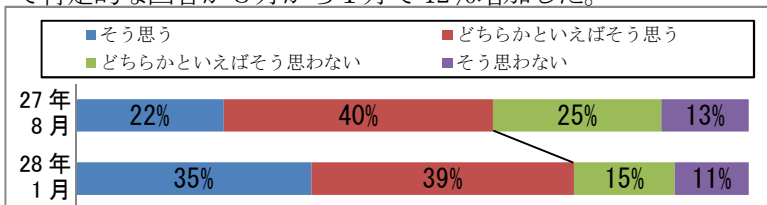
- ・飯島先生の授業を受けることができ、学習がとても楽しかったです。
- ・なぜ、飯島先生がつくった飛行機がよく飛ぶのか解明したいです。
- ・もっとよく飛ぶひこうきを工夫して、作成したいです。

<保護者の声>

- ・地域の方が講師になるなど、地域が学校のために関わることができて、とても素晴らしいと思います。
- ・家庭学習に進んで取り組むようになりました。

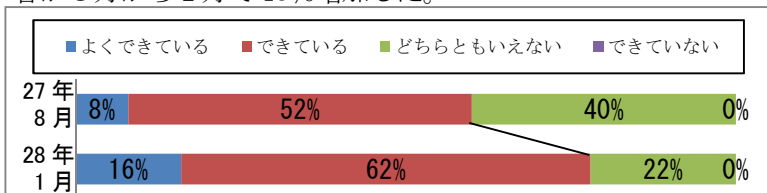
〔児童アンケート結果〕

「外部の先生の授業により、学習が楽しくなった」の設問について肯定的な回答が8月から1月で12%増加した。



〔保護者アンケート結果〕

「進んで学習する子供が育っている」の設問について肯定的な回答が8月から1月で18%増加した。



□本校の土曜授業のねらい

- ・家庭や地域と連携した取組について、活動が単発であったり、同じ内容の活動が行われていたりするなどの課題が見られた。
- ・このため、土曜授業に「コミュニティ・スクール事業」との連携を図った取組を位置付け、体験的な学習を活性化し、土曜授業に多様性をもたせることとした。

コミュニティ・スクールによる外部人材の活用

〔取組の概要〕

- 豊かな体験活動を通して生徒が主体的に学習に取り組む能力を身に付けるため、本市で設置したコミュニティ・スクールの仕組みを活用し、平日の学習では体験できない地域と協働で取り組む「避難訓練」などの活動を位置付けた。
- また、土曜授業では、原則3時間とし、そのうち1～2時間を通常の学習に充てた。授業については、全て保護者や地域に案内を出し、積極的に公開した。

〔取組のポイント〕

ポイント① コミュニティ・スクールの仕組みを活用すること

ポイント② 平日の学習では体験できないことを位置付けること

ポイント③ 保護者や地域に積極的に公開すること



【地域との合同避難訓練の様子】

<子どもの声>

- ・普段、なかなかできない体験を地域の人たちとできることが楽しいです。
- ・地域にいろいろなことを教えてくれる人がいることが分かりました。

<保護者の声>

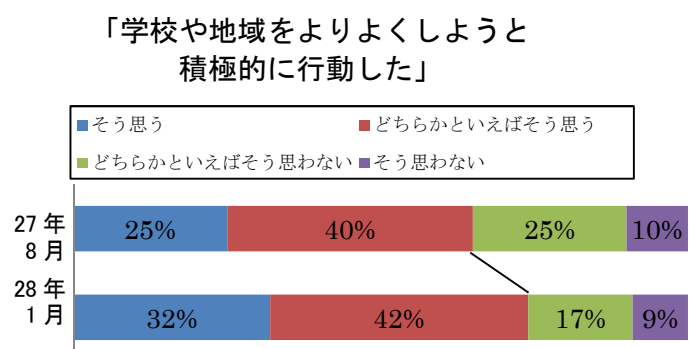
- ・地域との合同避難訓練は一緒にすることに意味があると思いました。

<地域住民の声>

- ・地域との活動は、単発ではなく、長く続けるのがいいと思います。

〔生徒アンケート結果〕

「学校や地域をよりよくしようと積極的に行動した」の設問について肯定的な回答が8月から1月で9%増加した。



□本校の土曜授業のねらい

- ・本校の生徒は、ネット上のトラブルを未然に防いで情報通信機器を正しく取り扱う知識や技能、多様な人とよりよい人間関係を構築する力を身に付ける必要があった。
- ・このため、外部人材を活用した情報モラルに関する学習や、様々な外部人材と交流する活動などの豊かな体験活動を位置付けた。

外部人材を活用した活動の充実

〔取組の概要〕

- ネットトラブルの未然防止を図るため、北海道立教育研究所附属情報処理教育センター所員を講師として「情報通信安全教室」を実施するなど、専門的な知識を有する外部人材を有効活用した。保護者にも呼びかけ、生徒と保護者が一緒に参加したことで問題意識の共有を図った。
- 多様な人との人間関係を構築する力を高めるため、アメリカの学生との交流体験など、人との触れ合いを大切にしたい取組を実施した。1単位時間の枠を超えてゆとりをもった活動を取り入れるなど、交流しやすい環境づくりを工夫し、生徒が多様な体験活動を行えるようにした。

〔取組のポイント〕

ポイント① 専門的な知識を有する外部人材を有効に活用すること

ポイント② 人との触れ合いを大切にしたい活動を位置付けること



【アメリカの学生と英会話日本文化を交流する様子】

<子どもの声>

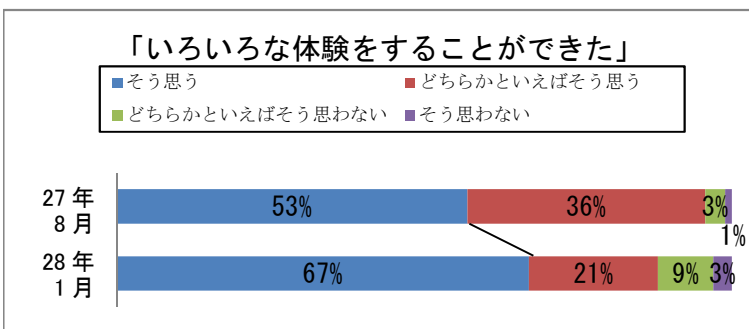
- ・いろいろな人の話を聞いたり、触れ合ったりすることができました。
- ・外部の人から話を聞く授業は、自分たちに役に立つと思いました。

<保護者の声>

- ・土曜日に学校行事があると参加しやすいです。
- ・行事もよいですが、勉強する時間もとってあってもよいと感じました。

〔生徒アンケート結果〕

「いろいろな体験をすることができた」の設問について「そう思う」と回答した割合が8月から1月で14%増加した。



□本校の土曜授業のねらい

- ・本校では、平日の放課後に実施している講習や補習等の学力向上の取組と部活動や各種委員会等の活動を、効率よく効果的に行うことに課題が見られた。
- ・このため、土曜授業により、週に2回行っていた平日の7時間目を取りやめ、放課後に余裕をもたせるとともに、土曜日に実施しやすい外部人材や地域の教育資源を活用したキャリア教育を積極的に行うことで、生徒の学習に対する関心・意欲を高め、将来の生き方を主体的に考える力を育成した。

外部人材の活用によるキャリア教育の充実

〔取組の概要〕

- 本校3年生は、10月にキャリア教育の一環として、土曜日だからこそ招へいできる本校を卒業した大学生を講師として、大学生活の様子と心構えについて話を聞く場面を設定した。
- 親しみのある先輩から大学生活の実際を聞くことで、生徒の今後の進路選択に対する関心・意欲を一層高めるとともに、自己の将来について真剣に考える姿勢を育むなど、キャリア教育の充実につながった。

〔取組のポイント〕

ポイント① 土曜日だからこそ招へいできる大学生（本校卒業生）を講師とすること

ポイント② 外部講師を活用し、キャリア教育の充実を図ること



【大学について卒業生から話を聞く様子】

<子どもの声>

- ・大学進学について何をすべきかわからず、正直不安でしたが、目的をもつことの大切さを学びました。
- ・大学生活は、どれだけ「自由」という誘惑に負けずに真剣に取り組めるかが試されているのだと思いました。

<地域住民の声>

- ・少し前に卒業した、身近な先輩の話を聞くことができるのが、本校の強みですね。

〔生徒アンケート結果〕

「土曜授業のある土曜日の生活は規則正しい」について肯定的な回答が8月から1月で3%増加した。

「土曜授業のある土曜日の生活は規則正しい。」

